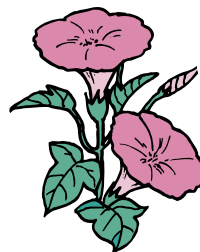


# 図書館 だより

No.70



2005.07

Fuji Women's University Library

## 中古文学会春季大会の記

日本語・日本文学科 小山 清文

5月から6月にかけて、春の学会シーズンとなるが、私の所属している中古文学会は5月14・15日に東京の実践女子大学で開催された。両日あわせて12人の研究発表が組まれているうちの半数が源氏物語に関するもので（ちなみに昨年東大で行なわれた際も12の発表中の7つが源氏関連だった）、あらためて相変わらず源氏研究が盛んであることやその研究者の多さ、そして源氏研究を中軸とする平安文学研究の現状が実感される。

さて、学会期間中は神奈川県横須賀の実家に泊まることにしているが（関係ないことだが小泉首相は中学・高校と先輩に当たるらしい）、横須賀から会場校所在地の日野までは2時間ほどかかってしまう不便なところなのだ。それでも折角だから開始時間に間に合うようにと真面目に心掛けたゆえ、わずかに遅れた程度で会場に到着できた（道を間違わなければほぼ間に合っていたと思う）。ところが、出欠を知らせるはがきを出していない

かったため、研究発表資料の入手に手間取ることとなり、レジュメなしでは聞いていても理解しづらいただろうと即断し、発表を聞くのはあっさりやめにして、先に古典籍展示会場をのぞくことにした。

それは、中古文学会・実践女子大学文芸資料研究所・実践女子大学図書館共催による「源氏物語



『石山寺蔵四百画面源氏物語画帖』中野幸一編集 勉誠出版 2005年 本館 721|JN39

### C O N T E N T S

中古文学会春季大会の記.....①	小山 清文
心理学の本を読む.....④	出口 拓彦

新任スタッフ紹介.....⑥
閲覧担当者のつぶやき.....⑦
資料紹介 こんな使い方もあります!.....⑧

展」と題されたもので、そこには実践女子大学所蔵の貴重な古典籍資料が数多く展示されていた。実践女子大といえば、源氏物語の日本古典文学大系を校注した山岸徳平氏や新旧の日本古典文学全集の本文校訂を担当した阿部秋生氏らがおられた大学とあって、さすがに源氏関連の貴重資料を備えており、「源氏物語展」という名が示すように全40点ほどの展示資料の約4分の3ほどを占めていた。主要資料の解題や写真を掲載したA4判で30頁をこえるパンフレットも用意されており、それをもとに展示内容を振り返ってみると、紫式部の和歌を集めた紫式部集（活字本はこの実践女子大本を翻刻したものが多い）や源氏物語の善本として重視されている明融本、源氏物語の古注釈書などの他に、江戸期の修紫田舎源氏を題材とした源氏絵のような享受資料等々、源氏以外では、室町期の挿絵入りの物語草子である奈良絵本や物語絵巻などが華やかな彩りを添えていた。もう随分と経ってしまったが、一九八九年（平成元年）の大学院時代、早大が学会の会場校や事務局を担当していた頃に、かなり大掛かりな「王朝物語資料特別展」を企画・開催したことがふと思い出されたりもする。

一方で、わが藤女子大学の図書館について考えてみる。とうてい積極的に古典籍を蒐集できるような状況にはないし、特にその必要もないだろう。ただ、それに代わる“売り”を全体で定期的に議論してやってきたかという基だおぼつかない。また、本学に図書館情報学課程を設置してから5年ほど経過しているが、それを契機に、本学の図書館のあり方についての見直しの実質的論議がどれほどなされたのか詳しくは知らない。職員

の方々はきびしい状況下で本当によくやってくれていると思う。それに比して教員中心の組織体である委員会が図書館運営にきちんと機能しているかというところが忸怩たる思いがする。図書委員をわずか1年つとめ終えたばかりの私にえらそうなことを言う資格はないとは思いつつ、あえて自責・自戒の念を込めてここに記すまいである。

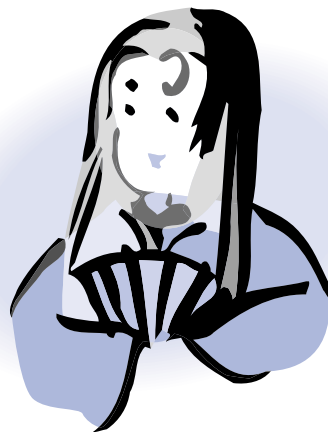
話題を学会に戻そう。古典籍資料展示会場の次に私が足を向けたのは専門書の販売会場であった。日本文学の専門書の出版に携わっている十数社が一堂に会して出張割引販売・受注をするこのコーナーは学会ではお馴染みのもので、私も学会を訪れたときには必ず立ち寄ることにしている。今回は例年になく多くの出店があり、おうふう・風間書房・笠間書院・新典社・翰林書房・和泉書院・勉誠出版……など、例年以上に深く考えぬままに数々の注文書を書き廻り、そのせいで今、数々の書籍と請求書が届けられいささかうんざりしている。研究費も額には限度があるのでできるだけ慎重に計画的に使いたいし（そもそも研究書の単価が高価過ぎるのであるが）、本の置き場所も工夫しないと“積ん読”状態になり、それはなるだけ避けたい。実は、今回は何よりもまず勉誠出版から依頼されていた原稿（『人物で読む源氏物語』全20巻の中の一項目／いずれ図書館の本棚に全巻並ぶことになる）の締切期日と分量の大幅な超過について丁重にお詫びしようと思っていたのだが、出店の並びの関係で結局一番最後になってしまった。（その後、研究発表資料を入手し、そちらにもちゃんと足を運んだ。）

ところで、勉誠出版の新刊本に『石山寺蔵四百画面源氏物語画帖』というものがあった。絵は白

描画に近いものだが、四百もの絵を備えているものは珍しい。ちょうど昨年の夏、北海道立旭川美術館で「石山寺と紫式部」展が開催され、本学の国語国文学会による企画で希望者を募って日帰り研修として石山寺所蔵の諸資料を見学してきたが（これについては藤女子大学国語国文学会会報79号に現日文4年生の戸田瞳さんの報告文が掲載されている）、重要文化財に指定されている石山寺縁起絵巻（全7巻）の他に、さすがに源氏物語にまつわる伝説をもつ名刹だけあって多くの源氏物語関連絵画資料などが陳列されていてなかなか見応えがあった。あらためて、このたび公刊された源氏物語画帖をじっくりとめくりながら定型化した場面と異なる絵をじっくりと鑑賞してみたいと思っている。皆さんも機会があったらぜひ図書館で閲覧してみてください。

「中古文学会春季大会の記」と題して書き始めた雑文だが、肝心の研究発表についてふれずにだらだらと綴ってきた。実際のところ、資料展示や書籍販売、さらに学友らとの懇談、東京以外の地で行われる秋季大会の場合は文学史跡めぐりや観

光などと、研究発表の他にも楽しみは多いのである（ちなみに、研究発表では金孝淑氏の『『河海抄』の和と漢—その注釈意識の一側面—』が興味を引くものであった）。慌しい2日間ではあったが、片時の間、勤務地を離れるのもほどよい気分転換になる。日曜日の夕方の飛行機を予約しておいたので2日目の発表は午前中まで聞いて早めに切り上げて羽田に向かったところまではよかった。羽田でまず搭乗手続を済ませ、やっとゆっくり休憩する時を得た。何を勘違いしたのか、飛行機の出発時刻を間違えて記憶していて、ひとときのティータイムを終えて搭乗ゲートに向かった時には既に私の乗るはずの飛行機はいつまでも現れない間抜けな客をのこしたまま大空に飛び立ってしまっ（？）いた。



## 参考文献

- 『日本古典文学大系 源氏物語』岩波書店 1958年 本館・花川館 918||N71i||14~18  
 『日本古典文学全集 源氏物語』阿部秋生ほか校注・訳 小学館 1974年 本館 918||N71s||12~17  
 『新編日本古典文学全集 源氏物語』阿部秋生ほか校注・訳 小学館 1994年 本館 918||Sh69s||20~25  
 『紫式部集』南波浩校注<岩波文庫>岩波書店 1973年 本館 911.138||Mu56  
 『新日本古典文学大系 彦紫田舎源氏』柳亭種彦〔著〕、鈴木種三校注 岩波書店 1995年 本館 918||Sh64||88~89  
 『人物で読む源氏物語』勉誠出版 2005年一 本館 913.36||J52||1~20（現在 2,4,6,7,8巻が刊行済み。以下続刊です。）

# 心理学の本を読む

出口 拓彦 (人間生活学科)

近年、心理学に対する関心が高まってきたように思います。しかし、従来から教員の間では話題になっていたことではありますが、一般の人が考える心理学の内容と、実際の心理学が扱っている内容が、必ずしも一致しているとは限らないようです。

町の本屋さんに入ると、(仮の例ですが)「あなたの悩みを解決する心理学」「人と上手につきあうための心理学」などの本や、雑誌の記事が並んでいるかも知れません。これを読んで、「日常生活で、いろいろな悩みを抱えているから」「人と上手につき合っていくための方法が知りたいから」という理由で心理学に興味を持った人も、もしかしたらいるのではないかと思います。

しかし、大学の図書館にある心理学の本や心理学関係の雑誌を開いてみると、必ずしも想像通りの内容では無いと思う人が少なくないのではないのでしょうか？ 脳の話が載っていたり、ネズミや犬を使った実験の話が載っていたりする心理学の本に出会った人もいます。あるいは、聞いたことのない統計用語や、難しそうなお表が載っていて、驚いた人もいるかもしれません。

一言に「心理学」といっても、「学習心理学」「生理心理学」「認知心理学」「社会心理学」「発達心理学」「教育心理学」「臨床心理学」…などなど、いろいろな心理学があります。もちろん、この中に

は、心の悩みを抱えている人に対する援助の方法について研究する心理学や、コミュニケーションや恋愛など、人と人との関係について研究する心理学もあります。しかし、その他にも、人がどのように物事を見て、記憶し、考えるのかについて研究する心理学など、「心の悩み」や「対人関係」に関する問題の解決とは、直接的には結びつけにくい分野もたくさんあります。ちなみに、心理学の本は、日本十進分類法の1門(哲学)と3門(社会科学)の両方にあります(したがって、図書館では、複数の場所に心理学の本が置いてあります)。このことから、心理学が様々な領域を扱う学問であることが読み取れるのではないのでしょうか。



また、心理学の本には、「統計」に関する記述がいろいろとできます。これは、初めて心理学の本を読もうとする人にとっては、けっこう大きな問題になるかと思います。「友だちとけんかをしてしまって、どうやって仲直りをしていいのかわからない…」とか、「人前に出るのが苦手で、いつも緊張して手が震えてしまう…」という悩みの解決策を見つけようとして、図書館の本を調べてみたら、出てくるのはよくわからない数値がたくさん並んだ表だったり、「標準偏差」とか「相関係数」などの統計用語だったりするわけです。

このような心理学の本に書いてあることを理解するためには、基礎的な統計の勉強をする必要が出てきます。統計が苦手な人にとっては、かえって悩みが増えてしまいそうですね。もちろん、統計用語の記載を抑えて編集された本もあります。しかし、授業や卒業研究などで専門的なことを調べようとすると、やはり、最低限の統計的な知識

は求められます。ここはいつそのこと、心理学に興味を持ったついでに、統計の勉強にも挑戦してみたいかがでしょうか。基礎的な理解を目標とするのであれば、恐らく、想像するほどには難しくないと思います。最近では、数式をあまり使わないで統計用語について解説した本や、マンガ形式の統計の本も出ています。興味のある人は、図書館を探してみてください。ちなみに、統計に関する本は4門（自然科学）にあります。

このように、心理学の本を探して読むためには、ちょっとした予備知識が必要になってきます。ただ、そうした知識を身につけることは、将来きっと役に立つことだと思います。そしてもちろん、心理学の本を読むことで、さらにいろいろな知識を得ることができると思います。

最初は、読むのはちょっと大変かも知れませんが、ぜひ図書館にある心理学の本を読んでみてください。



#### 参考文献

- 『生きる力をつける教育心理学』速水敏彦，吉田俊和，伊藤康児編 ナカニシヤ出版 2001年 花川館 371.4||I36  
 『わたしそしてわれわれ』大坊郁夫編著 北大路書房 2004年 花川館 140||D14  
 『社会心理学』吉田俊和，松原敏浩編著 ナカニシヤ出版 1999年 花川館 361||Y86

# 新任スタッフ紹介

## 図書課長

**矢野 誠**

この4月から、少々くたびれた新人ではありますが、お世話になっております矢野誠と申します。どうぞよろしくお願いたします。

この春まで、北大図書館に勤務しておりました。

新しい図書館で働ける喜びと同時に、皆さんの足手まといにならないか不安でもあります。

しかし、国公私いずれにあっても大学の学習・教育・研究を支える図書館の役割はいささかの違いも無く、皆さんに親切にいただき、毎日楽しく仕事をさせていただいております。

まだ日も浅く本学図書館の課題はよく把握できておりませんが、気がついた点の、第1は、どの大学図書館も抱える所蔵スペースの狭隘化対策だと思います。現在の蔵書数約30万冊は、本館・花川館合わせた収容可能冊数の97%に達しており、その為、利用者にとってわかり易い資料配列が実現できにくくご不便をかけているように感じます。早急な当面の対策と同時に、中長期的なビジョンが必要とされます。第2に、基本図書の体系的整備と更新、第3に、過去に受けた大量寄贈図書の整理等があるように思います。

現在、本学図書館のサービス実績は道内及び全国平均を大きく上回っております。このレベルを維持し更に飛躍させるためにも課題の一日も早い解決が望まれます。

## 本館情報サービス係 **藤武 小夏**

図書館の仕事にも少しずつ慣れてきました。初めの頃は失敗も多く、利用者の方達にも迷惑をかけてしまったと思います。特に、本の貸し出しの際にはいつも忘れて

しまう作業があり、本を借りて外に出ようとした方をしょっちゅう出口で引き止めてしまいました。その時の方々、ごめんなさい。まだまだ頼りないとは思いますが、気持ちよく図書館を利用してもらえるよう頑張っていこうと思っています。宜しくお願いします。

## 目録情報係

**川邊 蓉子**

今年の4月から雑誌の受け入れを担当している川辺蓉子です。毎日多くの雑誌に囲まれて仕事をしていますが、その作業1つ1つが私にとって勉強であり、図書館員と

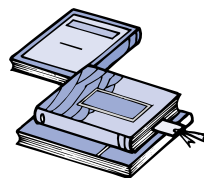
しての成長を促してくれるものであると考えています。また、とても楽しく仕事をさせていただいている中で、図書館や本における様々な知識を少しずつ増やしていき、みなさんの図書館利用のお役に立てるよう努力していきたいと思います。よろしくお願いたします。

## 目録情報係

**富樫 ふゆ子**

今年の四月から新しく図書館で働かせていただいております、富樫ふゆ子と申します。だいすきな本と、優しい先輩方に囲まれて、楽しく充実した毎日を送っており

ます。わたくしは主に一階事務室で新刊図書の装備や除籍等の作業をしておりますので、あまり学生のみなさんとは顔を合わせる機会がないかもしれませんが、まだまだ不勉強で至らない点も数多くございますが、どうぞ宜しくお願いいたします。



## 花川館情報サービス係

鈴木 梨沙

縁あって図書館に勤務してから2ヶ月が経ちました。周囲の皆さんのおかげで少しずつ仕事にも慣れてきたと思いますが、まだまだ勉強不足で迷惑をかけてばかりです。主にカウンター業務が中心なので、学生の皆さんとは顔を合わせる機会が多いと思いますが、気軽に声をかけてください。どうぞよろしくをお願いします。

## ● ● ● 閲覧担当者のつぶやき ● ● ●

### ■貸出カウンターから

図書館の中で、学生の皆さんにおなじみの場所、そしていちばん図書館員と接する場所、それが貸出カウンターですよ！皆さんに(幸か不幸か?)顔を覚えていただけるので、街中やお店など、思わぬ場所で声を掛けられることも……。反対に、図書館員もよく利用してくださる学生さんの顔や名前は結構わかります。「いつも利用してくれてありがとう！」と心の中で思っていたりするのですよ。

藤の図書館は、全国的にみても学生一人あたりの貸出冊数がとても多く、それが何故なのかははっきりわからないのですが、学生の皆さんの熱意に支えられていることだけは確かだと思っています。全ての資料を直接手にとって見ることが出来ることなど、他の大学ではなかなかない良さもありますので、これからもどうぞよろしくお願ひします。卒論を抱えた四年生の方に、「もっと早く図書館をよく使っていたら」と言われることもしばしばです。切羽つまる前にぜひ、図書館へ！そして、わからないことがあったら気軽に図書館員に声を掛けてくださいね。

### ■参考カウンターから

本を借りたり返したり、図書館のカウンターといえば、貸出カウンターがお馴染みですが、その隣にある調査・案内カウンターが、どんなサービスをしているのかご存知ですか？実はあまり知られていないのかもしれないかもしれませんね。調査・案内カウンターでは、図書館を有効に利用していただくための案内やサービスをしています。皆さんは、レポートや卒業論文に必要な本がなかなか見つからない、調べたいことがあるのだけどどんな資料に載っているの？データベースの検索の方法がわからない、など、図書館を利用する際に困ったことはありませんか？そんなときは、調査・案内カウンターにお尋ねください。資料の探し方や情報検索の方法などを詳しく説明します。本学図書館に所蔵されていない資料が必要な場合は、所蔵している図書館を直接利用するための紹介状を発行したり、有料ですが、当館を通じて他の図書館から資料を借りたり、コピーを取り寄せたりします。

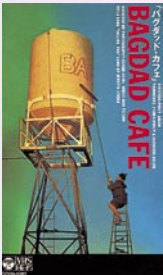
図書館のスタッフは、皆さんの調査や研究に少しでもお役に立てるよう、できる限りのサービスをしたいと思っています。わからないことがあったら遠慮なくお尋ねくださいね。

## 資料紹介 こんな使い方もあります！

図書館にはDVD、CD、LD、ビデオなどの様々なAV(audio visual)資料があります。AV資料は単に音・映像を鑑賞するためだけではなく、別の目的でも活用できることをご存知でしょうか？

例えば、英語教育の素材として利用される先生がいらっしゃいますし、学習になると言って好んで洋画を見る学生さんがいます。DVDはビデオなどと違い、言語や字幕の選択も可能なので語学の習得にも適しています。その他、授業内容への導入部として利用されることもあれば、授業で映画そのものを研究対象にしている方もいらっしゃいます。研究で使われるようなマイナーな映画なんて図書館にあるの？と思う方がいらっしゃるかもしれませんが、そういうものも積極的に収集していますので、諦めずに一度OPACで探してみてください。

それでは最後に、当館に所蔵している映画をいくつかご紹介したいと思います。興味をお持ちになったら、是非視聴してくださいね。



バグダッド・カフェ  
＜花川館所蔵・ビデオ＞

構成・音楽・映像と様々な要素が絡み合い、心に潤いを与えてくれます。ベルリンの壁崩壊前の1987年、西ドイツの作品です。



十二人の怒れる男  
＜本館所蔵・DVD＞

十二人中たった一人の陪審員が無罪を主張することから始まるサスペンス。日本でも「裁判員制度」が始まります。人が人を裁くことの意味を考えさせられる作品です。



浮雲  
＜本館所蔵・LD＞

成瀬巳喜男監督は林芙美子の作品を数多く映画化しています。浮雲は代表作にして世界的な評価を受けた名作です。

### ／編／集／後／記／

図書館だよりの担当を離れてから、たった2年…。またまた編集に戻ってきました。前回担当の時は大きさB5→A4の改革・カラーページの導入を、そして今回はモデルチェンジを起こし、より皆さんの目を引く仕上がりを目指しました。しかし、ブランク2年では掲載話題にも事欠き、編集に四苦八苦状態です。図書館だよりをご覧の皆様、こんな記事が読みたい！などのご要望がありましたら、ご意見ください。

藤女子大学 図書館だよりの 第70号 2005.07

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館

TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770

<http://library.fujijoshi.ac.jp/index.html>